

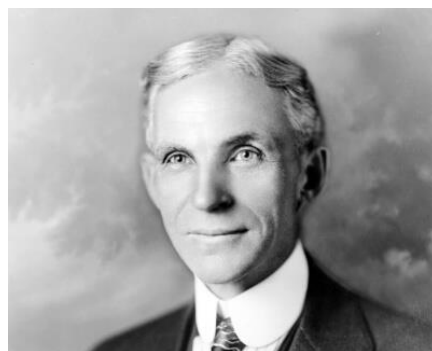
この学校にわたしたち

2023. 7. 3

N018

成功にむけての欠かせない経験

商品開発チームと呼ばれるところでは常に1人1人のアイデアを出し合いながら、「これをこうしてみたら」や「この方がインパクトがあるのでは」など活発に議論をしながら試作へと進んでいくとテレビで取り上げていました。試作でゴーサインが出ても実際に大きな赤字を出したら、さらに改善を加えながら次の商品につなげていくそうです。どの業界においても一流の人には一流の哲学があり、分野が違ってリーダーがそれを学ぶことは大切だと思っています。フォードという自動車会社の創業者ヘンリー・フォードさんもその1人です。下に少しだけ下に挙げておきます。(『経営者の名言』より)



- (1) すべてがあなたにとって向かい風のように見えるとき、思い出してほしい。飛行機は追い風ではなく、向かい風によって飛び立つのだということ。
- (2) 努力が効果をあらわす迄には時間がかかる。多くの人はそれ迄に飽き、迷い、挫折する。
- (3) 失敗とは、よりよい方法で再挑戦する素晴らしい機会である。

フォードさんは2度の失敗を乗り越え、その失敗を生かしながら3度目に成功しました。「失敗はより賢くやり直すためのチャンスに過ぎない」とどこかで聞いたことがあります。学校も含めて大人は、失敗させないように…そしてトラブルが起こらないようにと事前に注意し、方法を教える傾向が強いように思います。もちろん、命に係わる事案が想定される場合であればそれは当然のことであると思います。しかし、度を越してしまうと“失敗は許されないこと”とを感じるようになり、失敗した自分が許せなくなったり、大きく自信ややる気を喪失させたりすることになってしまいます。大切なことは、大人はしてもよい失敗まで奪わないということです。教えなければならないことは“失敗を失敗のまま終わらせない”ということです。今以上に“正解”がなく、先を見通せない時代を生きる子どもたちには、失敗をむしろ“成功に向けての欠かせない経験”と感じられるよう学校でも家庭でも教えていってあげたいと思い、上の(1)(2)(3)を子どもたちに贈りたいと思います。

安心したときにふと出ることは

子どもたち(特に低学年)は、ふと何かを伝えようと思う時に「ママ(パパ)、…」と言ってから伝えてくれることがあります。私も若い頃、何度か言われたことがあります。いつもそのことには何も言わず、心の中で“この子は自分のことを安心して聞いているんだな”と感じながら話の内容を聞いていました。先日、低学年の子から、突然、「おじいちゃん…」と呼ばれ、“この子はおじいちゃんとの距離が近い子なんだな”と理解しましたが…。気持ちだけは若くありたいものだと思いました。